

杉並区三谷小学校学校運営協議会（概要）

1. 設立背景

(1) 未知の世界

コミュニティスクールの実施は、**誰もが**(行政も、学校も、地域も)**はじめての試みで、何をやってよいかわからない状態。**

(2) 設立きっかけ

校長の強烈なリーダーシップ。子供たちのために何かやりたい！という強い想い。
個性豊かな教職員。ただし、反対派も多数。

(3) 地域の潜在力

既存の地域活動自体は盛ん。ただし活動がきちんと整理されてはいなかった。
近隣に都立農芸高校、都立杉並工業高校、早稲田大学ラグビー蹴球部があり交流が活発。

(4) 当時の学校概要

小規模学校(学級数:12、児童数:392名、教員数:20名)

2. 基本的な考え方

(1) 活動テーマ

自信と誇り = 「個」は自信を、「組織」は誇りを。

* **第一回会議**、当時の会長独断で決定

(2) 基本姿勢

モデル校としての責任。成功活動だけでなく、失敗も成果も発信。

形式にこだわらず、自由に考え、発言。走りながら、考え、即、実行する。無理せず、できることから、こつこつと。
上から目線にならない！こと

(3) 協議会の位置づけ・役割

学校の応援団

学校と地域とのつなぎ役

(4) 基本目標

学校の現状理解

これまでの地域の活動を整理

地域人材活用ための仕組みづくり

3. これまでの経緯

■初年度

とりあえずCS委員が行動して、走りながら考える。
- 諮問機関ではなく、実働部隊へ(部会の立ち上げ)。
- 4つの部会活動を通じたコミュニケーション。
- 学校現場を知るため、**教員からCS委員へ日常業務のプレゼン(ポスターセッション)**を行ってから劇的に変化。



ポスターセッションの風景

■2年目

教職員からの信頼を得るために、部会活動を共同。月一回の委員会とは別に、各部会が高頻度で活動。



4つの部会活動

■3年目～4年目

保護者(PTA)、地域の人材を、CS活動に巻き込む。「地域支援本部」を立ち上げ、部会活動を徐々に移行。

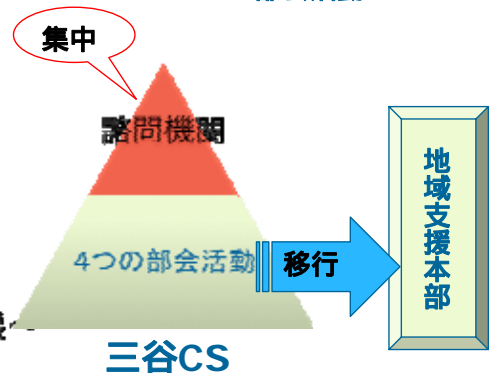
■5年目～

諮問機関として、協議会組織の本来任務に集中。本来任務とは、教育方針、地域課題対応、人事、予算など。

■理想的な将来

コミュニティスクールの積極的な解散

～制度なくとも自律的な活動ができる学校/地域へと発展～



4. 部会活動紹介

(1) あいさつ部会

目的: 子どもが安全に安心して過ごすことができる地域作り

- ・ 活動内容 : 保護者対象「あいさつアンケート」の実施
- ・ 活動内容 : 「あいさつポスター」の作成と掲示
- ・ 活動内容 : 「あいさつ下敷き」作成



あいさつ下敷き

(2) 図書部会

目的: 「他のどこにもない図書館をめざして」子どもの居場所そして、地域の人も活用できる図書館づくり

- ・ 活動内容 : 読まれない本の整理
- ・ 活動内容 : 三谷祭での「読んでほしい本」の寄贈と寄付。
- ・ 活動内容 : 先生・委員・地域図書館・ボランティアの準備室。



さんやごよみ

(3) 情報発信部会

目的: より多くの人に三谷コミュニティスクールを知ってもらう

- ・ 活動内容 : 独自ホームページの立ち上げ (<http://www.sanya-cs.jp>)
- ・ 活動内容 : 関連団体の各種会合での告知
- ・ 「さんやごよみ」(地域カレンダー)の作成(支援本部の共同)

(4) イベント部会

目的: 三谷コミュニティスクールの情報発信の場づくり

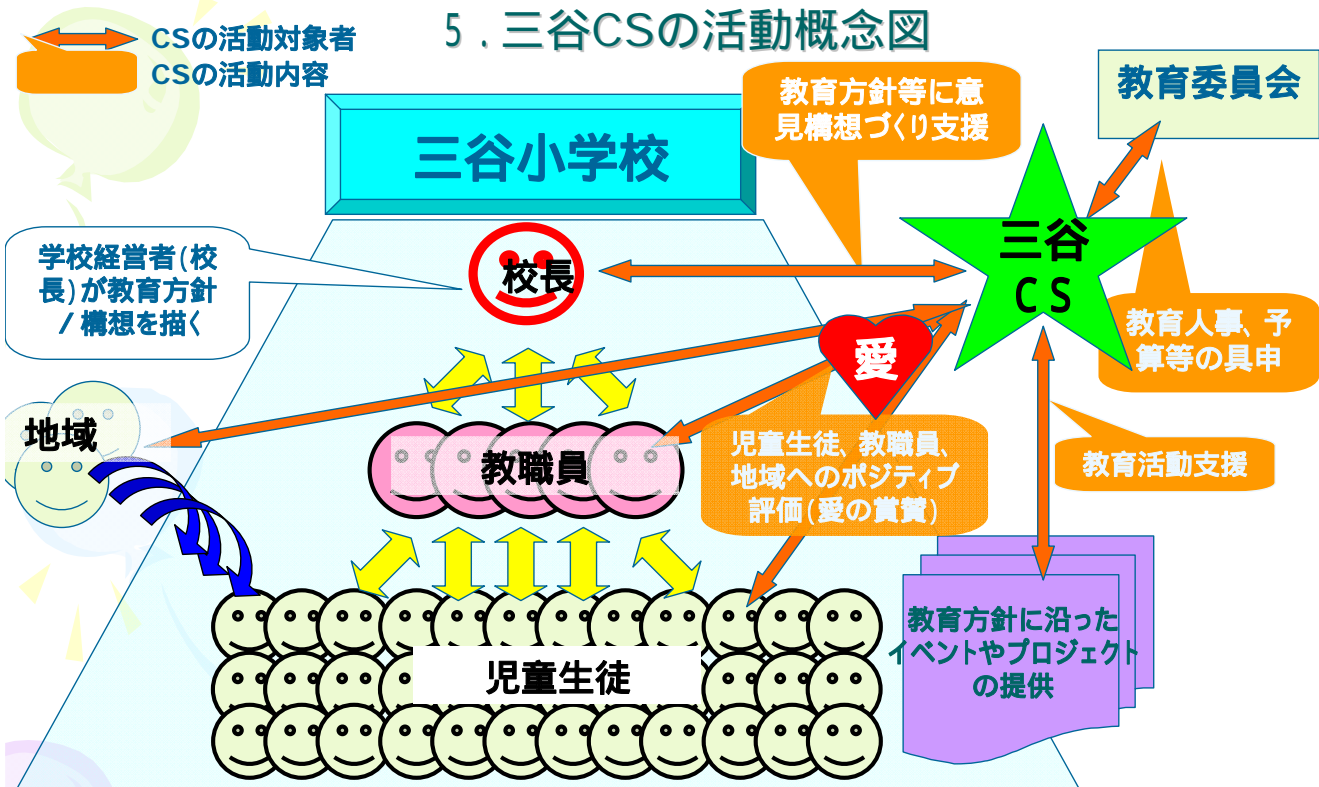
- ・ 活動内容 : さんや祭でのブース
- ・ 活動内容 : CSフェスタ開催、地域表彰



CSフェイス他での地域表彰

全ての部会活動が、協議会中の発言から、生まれました。

5. 三谷CSの活動概念図



三谷CSを進める上で大切なこと

- ・ 学校運営協議会制度は「制度」である
 - － 「制度」で万能ではない。単なる「道具」。道具は、使い方次第。
- ・ 「マスト(やるべきこと)」と「ネバー(やってはいけないこと)」をきちんと理解する。
- ・ たかが月一回2時間の会議で、課題を解決することは大変。よって、構えずぎない。